

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム
 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：24018

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇共通指標の、「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりしている」等において、肯定的な回答の割合が高い水準を保っている。</p> <p>◇半期に1回、漢字と計算について実力を試すテストを設定することで、目標をもって取り組んだり、自己の伸びを実感したりできる児童が増えている。</p> <p>◇行事等で振り返りを大切にし、自己の伸びを感じている児童が増えている。</p>
	<p>◇共通指標の、「自分で計画を立てて勉強している」は、肯定的な回答の割合が低く、生活を自らコントロールする力に課題がある。</p> <p>◇共通指標の、「読書は好きである」の肯定的な回答の割合が全体的に低く、読書の習慣があまり身に付いていない。</p> <p>◇教研式学力調査の結果分析から、「時間内に課題が終わらない子」「困難な課題を前にするとすぐ諦めてしまう子」が多いという課題がある。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市の共通指標の「自分にはよいところがある」等の相互承認に関する項目において、肯定的な回答が全市の平均よりも高い傾向にある。年間を通して縦割り学級による異学年交流を実施していることや、キャリアパスポートの取組を通して子どもが伸びや成長に気付ける場を設定していることが、自己肯定感の高まりに寄与していると考え。一方で、「自分は必要とされていると感じる」の項目は肯定的な回答の割合が低く、課題である。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分から教材や人に関わり、学び合う力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1)研究の重点「子どもの学力を支える授業づくりや日常の取組」の推進</p> <p>ア. どの子にも「やってみたい」「なぜ？」が生まれる教材や、授業の導入、課題などの工夫</p> <p>イ. 学習の得意・不得意に関わらず、全員が参加できる授業内の手立て →板書の構成、個別の最適なサポート</p> <p>(2)「かかわり」を育む基礎・土台作りの推進 →「話し方聞き方あいうえお」を全校で取り組み、学び合う学習習慣づくり</p>	<p>①学級や学校における、生活づくりへの参画</p> <p>A.「出し合う」「比べ合う」「まとめる」という流れに沿った学級会の実施</p> <p>B.学級会で培った話し合う力を活かした委員会、クラブ、きらめき（異学年交流）の実施</p> <p>②自分たちの生活を振り返る場の設定 →「挨拶」「廊下歩行」「話し言葉」（アロハ）の3つの行動を振り返る「思いやりフラワー」の実施</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇主に(1)イ.や①B.について、複数のツールの中から適当なものを、児童が自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前指導の機会を設ける。</p> <p>◇主に①B.について、「さっぽろっ子サミット」に向けてのパートナー校との連携のために、オンラインミーティングの機会を作り、子ども同士の声を上げられるようにする。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>



